カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8114
長崎市橋口町1-1
長崎大司教館内
TEL 095-843-3869
FAX 095-842-4460
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社インテックス

祈りの意向

祈祷の使徒

- 教皇　母親や父親を失った家庭が、教会の中での支援や寄り添いを見出し、信仰によって助けられ、力づけられるように
- 日本　家族のために祈ります。聖家族に倣い、私たちの家族にも互いに愛し合い、思いやる心が育まれるように

2027年WYDソウル大会
長崎教区の準備委員会が呼びかけ

参加申し込みは12月末日必着

来年8月開催の「2027ワールドユースデー（WYD）ソウル大会」に関して、長崎大司教区2027WYDソウル大会準備委員会は10月26日、各小教区などにあてて参加申し込みの案内を送付した。長崎教区のホームページでも紹介しているが、参加申し込みの提出期限が12月31日（木）必着であることから、あらためて本紙を通してお知らせする。WYDと参加者募集について青年の皆さんにぜひ知っていただきたく、周りのすべての皆さんにも呼びかけのご協力をお願いしたい。

長崎大司教区2027WYDソウル大会準備委員会は、2026年10月26日付の案内文で次のように呼びかけている。以下は抜粋。

2～3年ごとに行われる世界青年大会（WYD＝ワールドユースデー）が来年、お隣韓国ソウルで開催されます。そのためにあらゆる準備を整えて、参加者の募集を始めることになりました。

今回のWYDはこれまでとは違って、各教区が独自に参加者を募集して教区での日々に参加し、ソウルでの本大会で日本公式巡礼団として合流する予定です。長崎大司教区は既に教区での日々のために、テグ大司教区に参加する準備をしてきました。まだ航空券の手配などの問題で提示される参加費は未確定ですが、ソウルの本大会への参加登録が開始されましたので、それに合わせて早めに参加者を募集し、準備を進めていきたいと思います。

各小教区の主任神父様をはじめ、各団体の代表の皆様はご理解のうえ、たくさんの若者たちが実際に参加して、カトリック信仰のうちに神に出会い、そのすばらしさを直接体験することができるようにお誘いくださいますようお願いいたします。

長崎大司教区
2027WYDソウル大会
準備委員会　ダニエル金桐旭

大会日程などの詳細は下段の通り。

2027WYDソウル大会 テーマ
「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」
（ヨハネ16・33）

■ 参加申込
対象：満18歳～35歳の長崎大司教区所属や現在その管轄に滞在している青年

Aコース	テグ教区大会 ＋ 本大会	7/29（木）～8/9（月） 参加費　200,000円（未確定、航空券込み）
Bコース	本大会コース	8/2（月）～8/9（月） 参加費　150,000円（未確定、航空券込み）
Cコース	教皇ミサ中心の週末コース	8/6（金）～8/9（月） 参加費　120,000円（未確定、航空券込み）

■ 募集〆切　2026年12月31日（木）

※満15歳～18歳の高校生や、満35歳以上の場合、長崎大司教区の公式巡礼団や日本公式巡礼団としては募集いたしかねます。ただし、別のグループとして直接に韓国の方に申し込むことによって参加できます。その場合、宿泊、交通、食事、日程など、すべての手配は別途、別行動となります。ご理解ください。

※長崎大司教区所属以外の聖職者、修道者の場合、申込用紙とともに名前、所属団体（修道会）、所属団体の代表（長上）の捺印及び署名などを記入した身分確認書（身分証明書）が必要です。（日本語可）

※長崎大司教区のホームページからも申し込みできます。

《お問い合わせ》
長崎大司教区 2027WYD ソウル大会準備委員会
Tel　095-842-4450　　fax　095-842-4460
email　d.kim@nagasaki.catholic.jp

大会申し込みフォーム

10月25日～27日
アッシジで平和の集い40周年



聖ヨハネ・パウロ2世教皇様が世界の分断化が進んでいることを憂い、世界平和を願って世界の諸宗教者をアッシジに招いて祈りの集いを開催したのは40年前、1986年10月27日のことでした。

その精神を引き継ぎ、毎年聖エジディオ共同体がイタリアをはじめ世界のさまざまな場所でその集いを続けてきました。今回は、同共同体から、日本カトリック司教協議会のエキュメニズム・諸宗教委員会委員長として、また被爆地長崎の司教として招かれました。

今回の会場は40年前と同じアッシジでした。10月25日～27日、会場にはたくさんの巡礼者のほか、世界中の諸宗教の指導者や信徒たち約5000人が集まり、平和についてのたくさんのシンポジウムと祈りの集いが行われました。本年は聖フランシスコ年ということもあり、平和に向かってのより実り豊かな集いとなりました。



集いのフィナーレに参加予定だったレオ14世教皇様は、術後のため大事を取られてビデオメッセージでの出席となりました。

（大司教　中村倫明）

＊写真㊤…聖フランシスコ大聖堂前での集いの一場面。さまざまな言語で「平和」の文字を記したカードを掲げる参加者。㊦…登壇し、発表する中村大司教。

カトリックセンター解体工事始まる
工期は11月20日から来年5月16日まで

1971年の落成以来、カトリック長崎大司教区の活動拠点として長年親しまれてきたカトリックセンターの解体工事が、この11月20日から始まった。

同センターは、建物の老朽化や宿泊部門の廃業といった理由のために昨年1月、館内にあったすべての事務所が大司教館などへ移転。センター跡地の活用については継続して検討が行われているが、このほど具体的に工期を来年5月16日までとして建物の撤去作業が進められることとなった。

センター跡地の活用方法に関してはこれまで数年にわたって議論が重ねられてきたが、進展が見られないままとなっていた。このような状況を経て、今年9月に開催された教区顧問会において「カトリックセンターを解体する」方針が正式に決定し（本紙11月号既報）、今後の新規活用については顧問会で検討を進め、再度、司祭評議会に諮るという流れが示された。また、新規活用が始まるまでの間は、センター跡地を貸駐車場として運用することも決まっている。



今年8月からはセンターの敷地の一部を駐車場に貸し出し、「浦上天主堂前」と「長崎上野町」の2カ所がすでにオープンしている。今回の解体工事に伴い、工事期間中は「浦上天主堂前」の駐車場は数台分に縮小される。

熊本地震　福岡教区
募金受付を終了、教区としての活動は継続

福岡・佐賀・熊本の3県を管轄区域とする福岡教区は、令和8年熊本地震の被災地支援のために震災直後から呼びかけていた募金について、10月31日をもってその受け付けを終了した。

福岡教区のヨゼフ・アベイヤ司教は、10月15日付の公開文書「令和8年熊本地震から2ヶ月半が経って」の中で、活動を支えるすべての方々へ謝意を表すとともに次のように述べている。「福岡教区としての活動はまだしばらく続きますが、募金は10月31日をもって締め切らせていただきます。（中略）集まったお金は、被災者義援金、ボランティア活動のサポート、物資支援、教会施設の修理の援助などのために使わせていただいています」

福岡教区での募金受付は終了したが、カリタスジャパンでは引き続き募金を受け付けている。詳細はカリタスジャパンHPを参照。

長崎大司教区は2027年に初の邦人司教任命から100周年を迎えます

ほしかげ

年度末が近づいてくるとニュースで「今年の漢字」が発表される。今年一年を漢字一文字で表したら、私たちは何を思い浮かべるだろうか。昨年の2025年においては、「熊」が1位、「米」が2位ということだった。令和の米騒動とも呼ばれた米不足で日本中のご家庭や飲食店が悲鳴をあげ、「熊」においても連日ニュースで取り上げられている▲2年前の2024年においては「金」という漢字が1位となっており、パリオリンピック・パラリンピックの金メダルという嬉しいニュースの反面、政治とカネの裏金問題、闇バイトによる金目当ての強盗事件が多発、物価高騰による家計の圧迫という意味が含まれているそうだ。世界や日本全国のニュースを観ていると不穏な記事が多いように感じてしまい、私自身不安に思うことが多い▲それでは私たち一人ひとりにとっての漢字一文字はなんだろうか。私にとっての2026年は「異」かもしれない。異動によって生活環境が変わったことで、身の回りで初めてのことも多くなった。それは嬉しいことでもあり、ときには寂しさや辛さを感じることもあった▲私たち一人ひとりにとっての1年、私たちはそれぞれ違う1年を過ごしてきたが誰もが前向きに元気な一文字であってほしいと思う。2027年を迎える前に一度腰を据えて振り返ってみても良いかもしれない。（希）

赤城聖職者墓地ミサ



11月10日（火）、長崎市高尾町の赤城聖職者墓地で、司教・司祭・助祭の追悼ミサが行われた。司祭約50人、信徒約50人が集い、中村倫明大司教の司式のもと祈りをささげた。

説教師の山脇守師（長崎南地区長、中町教会主任）は、聖職者が毎日唱える「教会の祈り」の読書課にある、聖グレゴリオ1世教皇の『福音講話』（年間第27土曜日）の一節「世界に司祭はあり余るほどいます。しかし、神の収穫のために働く人は非常に少ないのです。それは、私たちが司祭職を引き受けても、その任務を果たさないからです」を引用し、次のように語った。

「この箇所を読むと、毎年ドキッとさせられます。今年は聖フランシスコ年ですが、聖フランシスコと兄弟たちが生活を共にしたポルチウンクラ聖堂のひざまずき台は、フランシスコに憧れて大勢の人たちがひざまずいたので、すり減っていました。そのフランシスコが憧れたのはイエス様でした。イエス様の後に従ってこれまで模範を示してくださった聖職者に感謝するとともに、恵みを必要としている聖職者のために祈りましょう」

死者の月にあたり、参加者は亡くなった聖職者たちの歩みをしのび、感謝の思いを新たにした。

ド・ロ神父とパウロ中村近蔵氏を追悼

野道共同墓地でミサ





毎年11月7日、ド・ロ神父様のお墓（野道共同墓地）でミサが行われます。1914年に74才で亡くなったド・ロ神父様とその協力者であったパウロ中村近蔵氏の追悼ミサです。

今年は出津教会主任司祭、ダニエル金桐旭（キム・ドンウク）師の司式のもと、約60人の信徒、修道者が集まって行われました。本来ならば、出津出身の司祭を招待して共同司式の形で行われますが、今年は11月7日が土曜日に当たり、それぞれの司牧の理由で出津教会独自の行事として行われました。

ミサの説教の中でダニエル師は、ド・ロ神父様と中村近蔵氏との関係に言及しながら、神のみこころを行うためには、自分の意志を神のみこころに一致させる協力者が必要であることを強調。参列者はド・ロ神父と中村近蔵氏を思い、感謝し、祈りをささげました。ミサ後、参列者は皆、教会女性部が用意したふくれまんじゅうをもらい、解散しました。

（出津教会）

島原・天草の殉教者を記念して

教会の皆が主日ミサ後に祈る







10月11日（日）午前9時のミサ後、島原教会において、同教会の皆が主日ミサ後に祈る式典を行った。

最初に殉教者をたたえる聖歌『神のわざを思い起こそう』を歌い、その後、「島原半島信者代表によるローマ教皇への手紙」（1620年9月23日）が朗読された。

参加者は、厳しい迫害にも信仰を揺るがすことなく神をほめたたえながら命をささげていった殉教者たちを思い、殉教者たちの力強い信仰に倣うことができるように、殉教福者の取り次ぎを願って祈りをささげた。

マルセリーノ谷大二司教 帰天

（さいたま教区名誉司教）



10月10日午前9時41分、さいたま赤十字病院で逝去。かねてより療養中だった。73歳。

1953年2月13日兵庫県宝塚市に生まれる。86年3月21日浦和教会で司祭叙階。同教会助任。87年上尾教会主任、92年教区事務局長、93年川口教会主任、97年館林教会主任。2000年9月15日司教叙階。司教協議会の難民移住移動者委員会、部落差別に関する委員会、正義と平和協議会などで要職を務めた。13年さいたま教区司教退任。

葬儀ミサ・告別式は10月17日、午前11時からさいたま教区カテドラル浦和教会で山野内倫昭司教の司式により行われた。

牢屋の窄殉教記念ミサ

今年は少人数で祈りささげる



10月25日（日）13時から開催予定だった「牢屋の窄殉教記念ミサ」は、台風接近に伴い、船便全便が欠航見込みとなったため、下五島地区としての中止を決定した。ただ、下五島地区長で主任司祭の中田輝次師は久賀島に前晩入りし、浜脇教会（巡回教会）の聖堂において少人数でミサを行った。ミサには、この日なんとか運航した船便で来島したという東京からの参加者の姿もあった。

同じ10月25日に予定されていた十字架山殉教祭（浦上教会）とキリシタン洞窟ミサ（土井ノ浦教会）も、台風接近に伴う天候不良予報のため、今年は中止となった。

お知らせ

〈司教座聖堂献堂記念ミサと平戸ザビエル祭について〉

11月1日（日）開催とお知らせしていた「司教座聖堂献堂記念ミサ」は、急きょ教区としてのミサを行わないことが決まり、各自、各小教区で祈りをささげるよう呼びかけられた。

また、12月6日（日）に開催予定だった「平戸ザビエル祭」は、諸般の事情により今年は中止することとなった。

感謝

―香典返し―

長崎カトリック神学院
●堤 秋俊様（黒崎）
故マリア堤ヒサエ様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

カトリック障害者連絡協議会（カ障連）ながさき主催

2027年1月31日「祈りのつどい」開催

2027年1月31日（日）13時30分から浦上教会被爆マリア小聖堂で第2回祈りのつどいを開催します。

カ障連ながさきはキリストの愛に根ざし、障がいをもつ人ももたない人も、すべての人が支え合い、ともに歩むことができる教会共同体づくりを目的として活動しています。

2027年最初の祈りのつどいは、講演とテゼの祈りで構成します。講演のテーマは「聖書の中の障害者」、講師は長崎南山学園校長の西経一師です。講話のあとはテゼの祈りで静かなひとときを過ごしましょう。「テゼの祈り」とは、短い祈りの歌を繰り返し歌い、深い沈黙（黙想）と聖書の朗読を組み合わせたシンプルで深い祈りです。

どなたでもご参加いただけます。手話通訳のご希望や車いすなどで座席の配慮が必要な方は、事前にお知らせください。

【お問い合わせ】　カ障連ながさき
メール　kashouren@gmail.com
電　話　090-2514-8941（藤本）

2026年度 特別臨時司教総会

「被造物を大切にするためのミサ」来年から9月第1の主日ミサに

日本カトリック司教協議会（会長・菊地功枢機卿／東京教区）は、今年度の特別臨時司教総会を9月30日と10月1日に東京・江東区の潮見教会で開き、「被造物を大切にするためのミサ」実施に関して審議した。総会には15人の司教と2人の補佐司教が参加した。

今回の総会で審議された「被造物を大切にするためのミサ」は、9月1日から10月4日までの「すべてのいのちを守るための月間」にささげることが勧められている。この「月間」は、前教皇フランシスコが2019年に訪日した際のメッセージを受けて日本のカトリック教会が定めたものだが、もともと教派を超えたキリスト者が世界的に祝う「被造物の季節」の期間に当たる。

総会ではこのミサの実施に関して、下記3点が審議、承認された。

❶日本の教会においては、2027年から9月第1主日（被造物を大切にする世界祈願日）に主日のミサとしてささげるいずれのミサも（前日土曜日の夕刻のミサも含めて）、年間主日のミサではなく「被造物を大切にするためのミサ」としてささげる。

❷本司教総会に提案された「被造物を大切にするためのミサ」の聖書朗読箇所を使用する。（具体的な朗読箇所などは、今後、カトリック中央協議会のウェブサイトで公表される）

❸2025年8月に常任司教委員会で認可され公表されている「被造物を大切にするためのミサ」の公式祈願の日本語訳を、教皇庁典礼秘跡省による認証（コンフィルマッツィオ）（Confirmatio）を受けるために同省に送付する。

会期中には、上記の審議のほか、三つの司教委員会に分かれて意見交換がなされた。

司教協議会では、各委員会を三つの司教委員会（①福音宣教司教委員会②社会司教委員会③広報宣教司教委員会）の下に位置付けて新たな体制を整えている。

これまでは司教たちが話し合いを進めてきたが、今回は初めて秘書の司祭、修道女、信徒を交えた「合同会議」を開いて意見交換を行った。

総会のダイジェスト動画は、カトリック中央協議会のウェブサイトから視聴できる。動画の最後に司教協議会会長の菊地枢機卿が本総会の概要を語っている。

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大 村 店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

ド・ロさま 長崎ちゃんぽん
Nagasaki Spaghetti 長崎スパゲッチー Since 1883
株式会社サンフリード ド・ロさま麺工場
長崎市西出津町2528-1
TEL(0959)23-0610
FAX(0959)23-0611
右記URLから ご注文できます

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

浦上キリシタン流配碑 建立100周年記念

奈良県・大和郡山教会には、浦上キリシタンの流配を今に伝える記念碑が立っています。今年はこの碑の建立から100年となり、記念行事が行われました。教会信徒の方に寄せていただいた記事を掲載します。



11月3日（火・祝）、大和郡山流配碑建立100周年記念ミサと祝福、記念講演が、カトリック大和郡山教会で行われました。参加者は約200人で、京都教区の大塚喜直司教の司式により、100年前にビリオン神父が建立した墓碑の前で祝福が行われました。この墓碑は、長崎の流配者ご遺族の希望を受け、現在の記念碑となったものです。

記念講演では、高木仙右衛門のひ孫にあたる高木慶子シスター（援助修道会）が、「信教の自由と浦上信徒」と題してお話しくださいました。

また、浦上キリシタン資料館（長崎市）のご厚意により、「マリア観音」の特別展示を行うことができました。このマリア観音は2022年、流配者の収容施設跡のすぐ近くにある古民家を改装中、偶然見つかったものです。「子安観音」をマリア様に見立て、流配信徒が拝んでいたものではないかとみられ、現在調査中です。

私たちは、ビリオン神父の功績と深い愛の精神を、建立100年を節目に改めて学ぶことができました。次世代へ継承するとともに、大和郡山市の歴史としてこれからも語り続けていきたいと思います。

大和郡山教会
孫工ひとみ



コンスタンツォ神父殉教祭

「記憶と心に残る」8年ぶりの野外ミサ



福者カミロ・コンスタンツォ神父殉教祭が10月18日（日）、午後2時から焼罪殉教公園で行われた。日差しを避けるためテントを十数張り準備し、椅子席を設置した。好天に恵まれた公園での殉教祭は8年ぶりであったが、平戸地区からの信徒、修道者、巡礼者、約300人と地区司祭団が集い、中村倫明大司教司式のもと記念ミサがささげられた。

開祭では、侍者服を着た小中学生二十数人が司祭団の前に入堂行列し、参列者たちの目を引きつけた。大司教は説教の中で、コンスタンツォ神父の宣教活動を紹介し、神父の活動に協力した同宿、宿主、船頭らの名前を挙げながら、彼らも神父と同様に殉教したことを述べ、当時の信徒たちの熱い信仰に学びたいと語った。また、イエス様との出会いをもたらすために命をかけて活動し、命をささげた平戸の殉教者たちの福音宣教の熱意に倣うように努めようと励ましの言葉をおくった。

朝から設営のために汗をかいた信徒たちからは、久しぶりに野外ミサができて記憶と心に残る殉教祭になったと喜びの声が聞かれた。

（平戸地区）

黒瀬の辻殉教祭

「信仰者としての道」歩み通すよう励まし



11月8日（日）心地よい秋空の下、6人の司祭と約150人の信徒が黒瀬の辻殉教地に集い、殉教ミサがささげられた。

異動によって7年ぶりに平戸地区に戻った福島光明神父（平戸地区長）の「ただいま」という穏やかな言葉で始まったミサは、ガスパル西玄可とその家族が殉教したこの地で、それぞれの家族とその結びつきのため祈りがささげられた。

説教は田平教会主任の中村満神父が担当した。中村家にも久賀の牢屋の窄で殉教した3人の姉妹がいたこと、迫害時代、牢屋から出ることのできた者たちもいたが、命をささげた者たちもいたことで、常々殉教と棄教のはざまがどこにあるか思い巡らしている。殉教は人の力によってだけでは実現できず、人が歩くために右足と左足を交互に前に出すように、命をささげ、殉教するには、神の力である右足と人間の力である左足が協力し合ってはじめて彼らは救いと神の国に向けて歩くことができたのではないかと話した。

中村神父は、ガスパル西玄可が「私がここで命をささげることは、私が心から望んだ道です」と語り殉教したように、私たちも自ら選んだ信仰者としての道を歩み通すよう一同を励ました。

（山田教会）

浦上教会関係者ら 萩・鶴江台を訪問

11月4日（水）、浦上教会の神父と信徒ら計6人が、浦上キリシタン流配地の一つである山口県萩市を訪問した。一行は萩教会の主任神父とともに、かねてより調査が進む殉教者の仮埋葬地「鶴江台」の整備について話し合った。翌5日（木）は同所の清掃作業を行い、萩教会でミサをささげ、帰路に就いた。

かにずれて左の方が黒く焦げているということですが、倒れることなく立ち続け、先人の尊い信仰を証しし続けてくれていると思います」

そして、旧約聖書（ダニエル3章）の燃え盛る炉に投げ込まれた3人の友人のように、真の神を信じた気高く謙遜な3人の親子の殉教について、「彼らは、この神こそがこの世の命を終えても私たちを救い生かしてくださる神であると示し、その神と仲間とともに歩むことのうちに本当の希望があると私たちに示してくれているのではないでしょうか」と述べ、信仰を大切にし、希望をもって歩むよう祈りを呼びかけた。

ベアトス様殉教祭

浦上キリシタンの親子3人を思う



毎年行われている「ベアトス様殉教祭」が、今年も11月3日（火）16時から長崎市橋口町にある殉教史跡「ベアトスさまの墓」で行われた。徳川幕府のキリシタン弾圧で火刑に処せられ殉教した、ジワンノ、ジワンナ、ミギルの親子3人を思うこのミサには、浦上教会の信徒ら約30人が参加し、祈りをささげた。

ミサの主司式を務めた中野健一郎師（浦上教会助任）は、説教のはじめに約400年前の殉教の歴史の重みに触れ、90年前に建てられた殉教を記す石碑について語った。

「この石碑は81年前の原爆で熱線や爆風を受け、土台の石と碑がわずか

2027カレンダー『水たまりの月』



今年2月に発行された絵本『水たまりの月』からカレンダーが生まれました。文＝古巣馨（長崎教区司祭）、絵＝おむらまりこ（図画工作教諭・絵本画家）。青菜舎、税込500円。

「うれしくて、涙が出るくらいしあわせなことは、『とっておきの心』に入っているから忘れないのです。」（本文から）

本の情報、購入については
こちらでご確認ください→
https://seikansha.art

ぶどう園

▼パイプオルガン・コンサート～イエス・キリストの生涯～　1月11日（月）14時、浦上教会。演奏者・高橋美保（純心聖母会会員）。入場無料（献金）。日本オルガニスト協会西日本支部主催。

12月1日～1月10日 長崎大司教区クリスマス愛の募金

教区評議会では、今年度も国内外の生活困窮者と自然災害被災者への支援のために「クリスマス愛の募金」を呼びかけています。皆様のご協力をお願いいたします。

被爆マリア像とともに米国へ

世界の平和、核廃絶を願う祈りの巡礼

広島と長崎 会見で思い伝える―11月2日 大司教館



11月30日～12月4日に米国ニューヨーク国連本部で開催される核兵器禁止条約第1回再検討会議に合わせ、広島と長崎の2つの被爆地からカトリック教会関係者と一般参加者計14人が、浦上教会の被爆マリア像とともに、世界の平和、核廃絶を願う祈りの巡礼に赴く。この詳細を伝える記者会見が11月2日（月）、長崎大司教館で開かれた。

この「米国平和巡礼」は、11月26日（木）から12月10日（木）まで。「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」（PWNW）の設立母体である日米の4教区（サンタフェ、シアトル、広島、長崎）の関係者が現地で合流し、核兵器廃絶を訴える計画だ。





▶11月2日、長崎大司教館での記者会見の様子。中央に見えるのは被爆マリア像のレプリカ。当日は会見に出席できない関係者もいたが、代表して6人が巡礼に向けての思いを語った。

長崎からは団長の中村倫明大司教、高見三明名誉大司教、教区平和推進委員長の鍋内正志師、そして、シスター、信徒らが被爆マリア像を携えて出発し、広島からの一行と合流して渡米する。現地では国連本部のほか、ラスベガスの核実験博物館、ロスアラモスのマンハッタン計画国立歴史公園、アルバカーキの国立原子力博物館などを巡り、教会でのミサや大学での分かち合い、ICAN市民社会フォーラムや諸宗教者の平和の集いにも参加する予定。被爆マリア像の渡米は、核拡散防止条約再検討会議が開催された2010年以来、16年ぶり2回目。

今回の巡礼は、米両教区からの広島・長崎への巡礼に対する答礼や、聖フランシスコ年に合わせた祈りの巡礼であることのほか、米国内の核被害や核兵器をめぐる現実に触れ、現地の人々との対話と祈りを通して学び、広島・長崎へ持ち帰ることも目的としている。

会見冒頭、中村大司教は「アピールだけでなく祈りの巡礼」だと語り、祈りをもって会見を開始。サンタフェ大司教区のジョン・C・ウェスター大司教もオンラインでメッセージを寄せ、PWNW設立に至った思いや経緯を語り、日本の巡礼団の訪米と、ともに平和を訴え、ともに祈る機会に感謝を述べた。

実物の被爆マリア像はこれまで、1985年バチカン、2000年ベラルーシ、10年バチカン・イタリア・スペイン・米国、12年サルディーニャを訪問し、被爆の実相と平和への願いを伝えてきた。会見では、来年8月に韓国で開催される集いに世界中から多くの青年たちが参加するにあたり、その前後に広島や長崎を訪れる可能性があることから、次世代を担う若者たちに今回の巡礼での体験を教会として伝えていく機会としたい考えがあることも示された。

核なき世界基金
被爆地からのチャレンジ
みんなで
いのちと地球を守ろう！
https://nuclear-free.net/

本河内教会ロザリオ祭

聖母マリアに賛美と感謝ささげる



10月25日（日）、ロザリオの月の締めくくりとして、10月の最終日曜日の恒例行事となっている本河内教会のロザリオ祭が行われました。当日は、台風30号の影響も懸念されましたが、例年よりも参加される人数は少なかったものの、ロザリオの祈りを通してマリアさまに賛美と感謝をささげたいという信徒の方々が集まってくださいました。

ミサの説教では、谷崎新一郎神父（コンベンツアル聖フランシスコ修道会日本管区長）が「聖母マリアさまは、教会にへりくだって共におられ、わたしたちの小ささ、弱さ、痛み、悲しみ、苦しみを神さまと共にやさしく受け止めつつ、神さまのあたたかなこころを伝えようとなさっている」と語り、わたしたちがそのようなマリアさまに、ありのままの自分自身を信頼して委ね、その取り次ぎによってイエスさまのこころ、深い平和、癒やしがわたしたちを満たしてくださるように、と願いました。



ミサ後は、聖堂でロザリオの祈りを唱え、一人一人の思いをマリアさまに託し、最後に参加された方々にルルドの水を持って帰っていただきました。

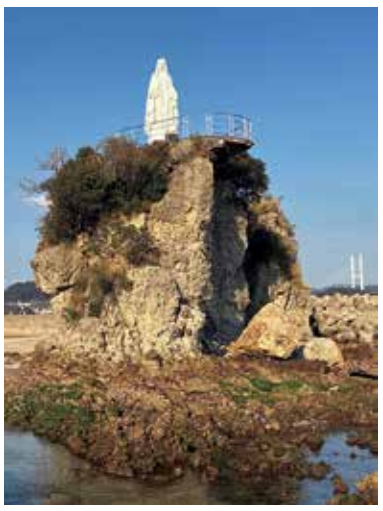
（本河内教会）

1月18日～25日
キリスト教一致祈祷週間

「キリスト教一致祈祷週間」が行われる。毎年日本国内でも各地で関連行事が開かれ、2027年、長崎では長崎キリスト教協議会とカトリック長崎大司教区の主催により、1月24日（日）14時から長与教会で礼拝が予定されている。

岬の聖母像移転における寄付のお願い

神ノ島教会主任司祭　山内啓輔



現在２代目の「岬の聖母像」。青空に白く映える聖母像の下の崖が崩落している。

長崎新聞やテレビなどでご存じの方も多いと思いますが、神ノ島教会下の岬に航海安全などを祈願するため1949年に設置された「岬の聖母像」の下の崖が今年3月上旬に崩落しました。このことにより、土地の所有者である長崎市から、聖母像の撤去もしくは移転を要請されました。

神ノ島小教区で皆さんの意見を伺ったところ、聖母像を残したいという意見でしたので、移転のために現在移転候補地の土地所有者である長崎県や港湾漁港事務所などと協議しているところです。現在の場所に崖を補強して残してほしいという意見もいただきますが、現在設置している崖の地質上難しいと長崎市から言われております。

移設工事の方法や新しい台座の高さなどまだ決定できないことも多いため、正確な見積もりは出せておりませんが、海上クレーンを使用して移設しなければならないことは間違いありません。そのような仕事に携わっている方々に助言をいただいたところ、1000万円は間違いなく超えるだろうということでした。超える、ということですので1500万円かもしれませんし、2000万円かかるかもしれません。

もちろん神ノ島教会内でも工事費を捻出するための寄付を頑張って集めておりますが、到底足りません。現在の物価高で厳しい社会状況にあって大変心苦しいお願いではありますが、賛同していただける方がいらっしゃいましたら、ご寄付を頂けると大変ありがたく思います。このたび、聖母像移設のための基金の口座を開設いたしました。お振り込みいただけると幸いです。

さまざまな形でご協力してくださっている皆様、すでにご寄付くださった皆様には心から感謝申し上げます。移設の進捗状況などは教区報やいろいろなメディアを通じて報告させていただきます。重ね重ねにはなりますが、どうぞご協力よろしくお願いいたします。

振込先
十八親和銀行 本店営業部（店番100）
普通預金
口座番号
5050828
岬の聖母像移設基金
代表　山内啓輔

福岡、旧大神学校に集合!!

長崎南地区子どもの集い

「ここにパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます」（ヨハネ6・9）。11月3日（火）、福岡の旧サン・スルピス大神学院において、長崎南地区召命担当主催の「子どもの集い」が開催された。長崎南地区をはじめ長崎北地区、佐世保地区から子ども約40人、司祭、修道者、コレジオ生、カテキスタや大人の信徒、総勢約120人が集まった。



多くの司祭が8年間過ごした大神学校。子どもたちに見せたいものも感じてほしいものもたくさん詰まった場所である。

はじめに聖堂でミサがささげられ、子どもたちは大神学校特有の祭壇左右の席を陣取った。正面の会衆席と左右の子ども席、まさに「祭壇を囲む」ミサとなり、左右から子どもたちが元気な祈りと歌声をガンガンと響かせた。昼食後、再び聖堂において司祭、修道者、コレジオ生によるミニコンサートが開かれ、歌う側も聴く側も心おどり一つに「これ、いいなぁ」と感じることのできるひとときをともに過ごした。

その後グラウンドに移動し、召命委員会恒例の靴飛ばしやじゃんけんゲーム、草スキーや長縄跳びなどで子どもたちと司祭、修道者、コレジオ生、そして大人たちも一心に交わった。

最後にみんなで輪になって芝生の上に座り、おやつの「うまい棒」を食べてこの集いを終えた。広大な敷地の中で思いっきり祈り、歌い、遊び、思いっきり交わることができた。



教区召命委員会
長崎南地区担当

上五島地区

公式訪問と合同堅信式



11月7、8日の日程で、中村倫明大司教による上五島地区公式訪問ならびに地区合同堅信式が行われた。7日（土）に青方教会、8日（日）に青砂ヶ浦教会と冷水教会を訪問した後、8日午後2時から青方教会において地区合同堅信式が行われた。7教会16人の中学生と成人信徒が堅信の恵みにあずかった。

中村大司教は説教の中で「わたしたちの灯をともし続けるのは、愚か（愚直）で、いのちをかけて愛する神（の愛）であり、両親の愛です。わたしたちはともにいてくださる神の愛、両親の愛に生かされ、包まれながら成長していきます」と受堅者たちを激励した。今回堅信を受けた方々の内訳は次の通り。青砂ヶ浦4、青方1、丸尾3、鯛之浦3、真手ノ浦1、土井ノ浦2、桐・中ノ浦2の16人。

交流・親睦スポーツ大会

地区女性部

10月4日（日）午前、新魚目総合体育館において地区女性部主催「上五島地区第35回女性部交流会ペタンク大会」が開催された。上五島地区の各教会から42チーム、145人が参加した。地区女性部の指導司祭・岩村知彦師は「この大会の開催を通して、地区の信徒の皆さんのお互いの交流を深めていただきますように」と激励の言葉を述べた。大会結果は、優勝・鯛之浦B、準優勝・大浦、3位・仲知B。



また同日午後、地区司祭団主催の女性部ソフトバレー大会が開催された。土井ノ浦・真手ノ浦・曽根・仲知の4教会から各1チームずつ出場し、チーム総当たりの熱戦が繰り広げられた。勝利セット数の多かった真手ノ浦と曽根が11月23日（月・祝）に行われる教区大会に出場する。

＊写真はペタンク大会。球の距離の計測を見守る選手の顔は笑顔の中にも真剣さがにじむ。

地区評議会

10月18日（日）8時30分から有川総合運動公園において地区評議会主催「上五島地区親睦ソフトボール大会」が開催された。上五島地区の各教会から12チームが参加し、4コート3チームずつに分かれて対戦した。コート別で上位となったチームが対戦し、勝敗を決した。大会結果は、優勝・冷水教会、準優勝・鯛之浦教会、3位青砂ヶ浦教会と曽根教会。

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

相続登記はお済みですか
土地・建物・会社・法人の登記手続 相続手続
遺言書の作成 相続土地の国庫帰属手続　など
まずは、お電話を!!
司法書士 行政書士 山下 緑 事務所
ミカエル 山下 緑
〒854-0014 諫早市東小路町10-21　電話 0957-22-6177

国際シンポジウム
アジアにおける
上海のカトリック文化
12月22日(火) 13:30～18:00（開場 13:10）
長崎歴史文化博物館・ホール
長崎市立山１丁目１番地１号
参加無料・要申し込み
第１部「上海のカトリック文化と近代日本」
第２部「朝鮮、台湾、シンガポールへの伝播」
第３部「上海フランス租界と徐家匯」
◀発表概要
申し込み先　meijisympo@gmail.com（12/21〆切）
【主催者】明治大学人文科学研究所共同研究「上海天主教文化のアジア伝播」/ JSPS 科研費基盤研究 B「日本における土山湾作品の流布と影響に関する調査」（代表 郭南燕）ほか

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)代847－7151
携帯 090－7923－9005
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越

赤城墓地
小家族様
分譲中
長崎石彫 岩永
095-862-2469

